トレンド

アイ・ティ・アール

国内IT投資動向調査2015の結果を発表

国内企業のIT投資意欲は増加基調を保ちつつも、成長率は鈍化
投資マインドは「攻め」よりも「守り」重視

アイ・ティ・アール（以下、ITR）は、国内企業を対象に 2014 年 10 月に実施した国内 IT 投資動向調査の一部結果を発表した。2001 年の調査開始から 14 回目を数える今回の調査では、国内企業の IT 予算、並びに投資戦略が 2014 年度にどのような動きを見せたか、2015 年度に向けてどのような方向へ進もうとしているかを定点観測している。また今回は、IT 投資の目的や戦略性に関する意識、IT 部門の将来の役割について新たな分析を追加している。

増加基調を保つも IT 予算の成長率は再び鈍化へ

前年（2013 年）調査では、国内企業の IT 予算の増減指数が“リーマンショック”前の水準を取り戻したことが確認されたが、2014 年度（2014 年 4 月 ～ 2015 年 3 月）の IT 予算は、増額（「20％以上の増加」と「20％未満の増加」の合計）と回答した企業の割合が 23.1％にとどまり、2013 年度（31.7％）を大きく下回った。

その一方で、減額（「20％以上の減少」と「20％未満の減少」の合計）と回答した企業の割合も前年度を下回り、その分「横ばい」とする企業が 65％強を占める結果となった。安定的に予算が確保できたものの、積極的に投資を行う企業が減り、模様眺めの色合いが濃い 1 年であったと見られる。

2015 年 度（2015 年 4 月 ～ 2016 年 3 月）に向けた見通しについては、成長率はさらに低下すると予想されており、増額を見込む企業の割合が若干減り、減額を見込む企業の割合が若干増える結果となっている。成長率は引き続きプラス水準を保つと予想されるものの投資意欲は弱含みの傾向にあると言える。

なお、この IT 予算の増減傾向を

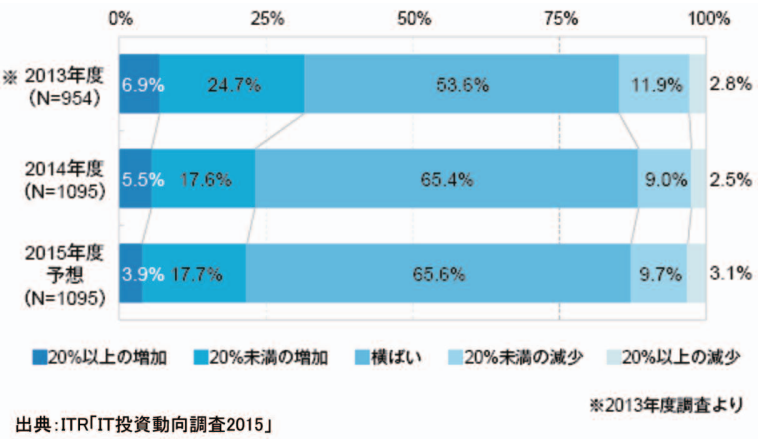


図 1　IT 予算額増減の経年変化（2013 ～ 2015 年予想）

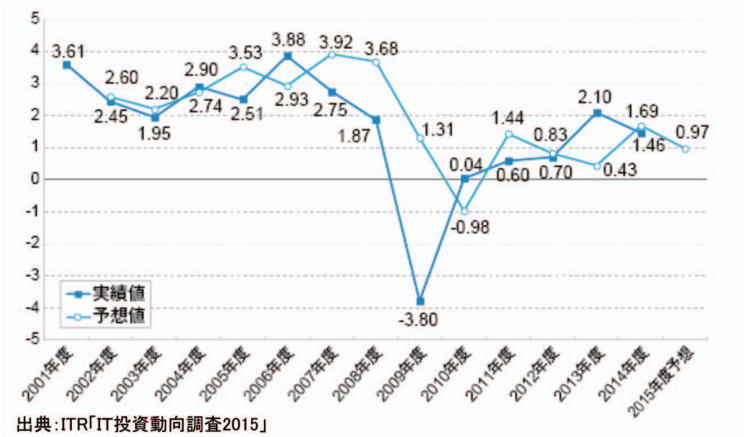


図 2　IT 投資増減指数の変化（2001 ～ 2015 年度予想）

指数化した「IT 投資増減指数（※1）」で見ると、2014 年度の実績値は前年調査時の予想とほぼ同水準の「1.46」となった。但し、2015 年度の予想値は 1 ポイント台を割り込んでおり、再び低成長となることが想定される。

※1　IT 投資増減指数：20%以上の減少を－20、横ばいを 0、20%未満の増加を＋10 などとして積み上げて回答数で除した値

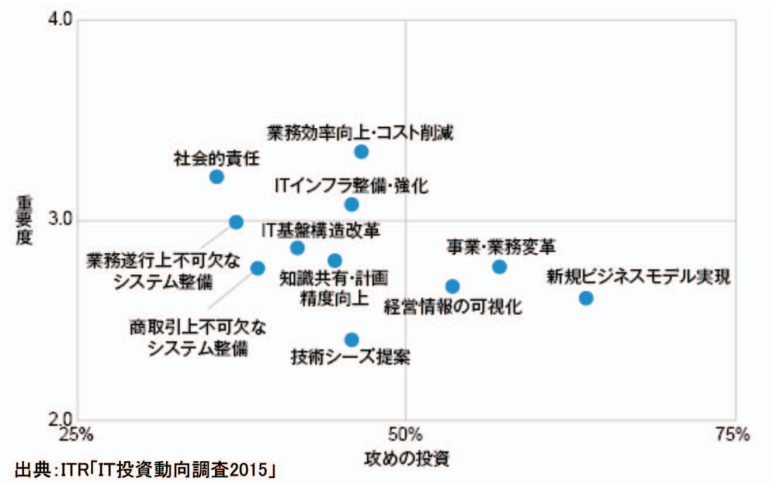


図 3　IT 投資目的のポジショニング（2014 年度）

IT 投資の目的は「守り」偏重

今年（2014 年）の調査では、IT 投資の目的や戦略性を見るために、新たな設問を設けた。

IT 投資の目的として 11 項目をあげ、それぞれについての重要度とともに、攻め／守りのいずれに近い目的かを質問したところ、多くの企業が「守り」に偏った目的で IT 投資を行っているという実態が明らかになった。

半数以上の回答者が「攻め」と認識している項目は 11 項目中わずか 3 項目にとどまり、それらはいずれも重要度が低いグループに属している。この結果からは、予算の確保や配分といった問題以前に、企業の IT 投資戦略に関わる当事者が、投資案件によって生み出される価値を前向きに捉えていないことがうかがえる。

また、この IT 投資目的に対する意識は、企業の業績の好・不調とも密接に関連しており、「非常に好調」と認識する企業では、個々の目的を「攻め」と捉える度合いが強く、かつ重要度も高い傾向が顕著に見られる。

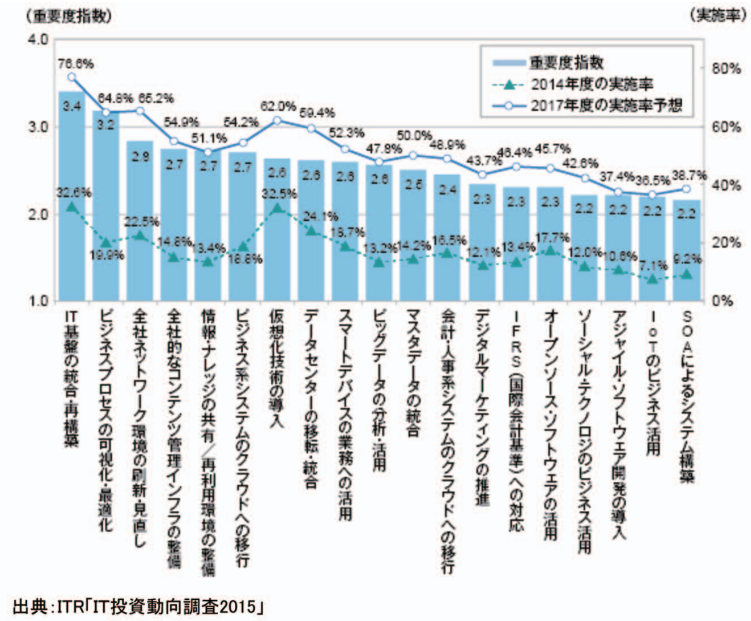


図 4　主要な IT 動向に対する重要度指数と実施率の変化

2015 年度に向けて最重要視する課題は 5 年連続で「IT 基盤の統合・再構築」。一方で、新分野に対する具体的な取り組みも加速

全 20 項目の主要な IT 動向を取り上げ、その重要度を尋ねた結果では、「IT 基盤の統合・再構築」が 5 年連続で最上位となり、2 位も前年同様「ビジネスプロセスの可視化・最適化」となった。3 位の「全社ネットワーク環境の刷新・見直し」、4 位の「全社的なコンテンツ管理インフラの整備」と併せて、多方面にわたる全体最適化が強く意識されていることが見てとれる。

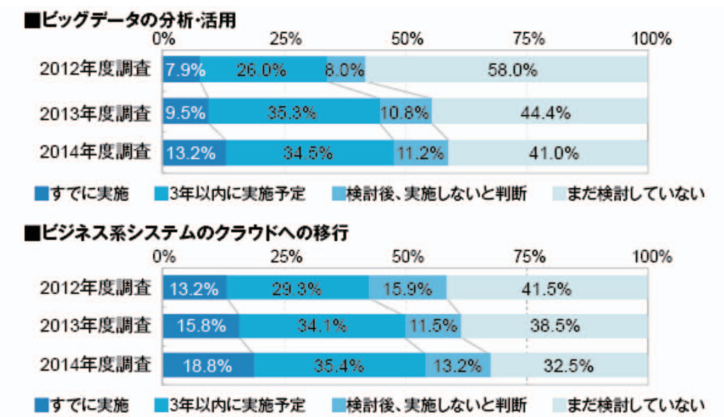
その一方で、クラウド、ビッグデータといった新分野と称される IT 動

向についても、取り組みが着実に進んでいることが確認された。こうした新技術を活かすための足回りを強化するために基盤整備が重視されているとも考えられる。

IT 部門の役割は将来に向けて縮小傾向か

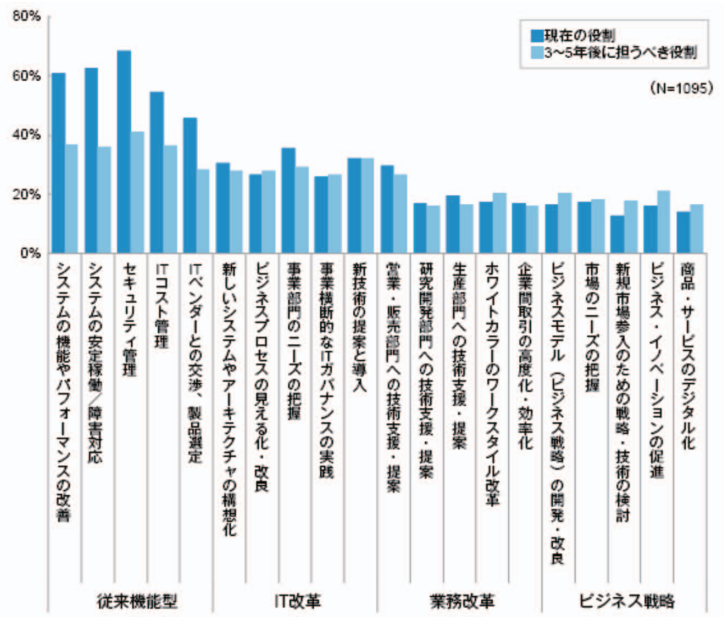
また、今回の調査では、社内のIT 部門の役割に関する設問も新たに追加された。

IT 部門の「現在の役割」と「3～5 年後に担うべき役割」をそれぞれ質問したところ、システム運用やコスト管理といった「従来型機能」は、今後に向けて役割が大きく縮小するとの見方が示された。拡大する役割としては「ビジネスモデルの開発・改良」「ビジネス・イノベーションの促進」といった、ビジネス戦略と深く関わるテーマがあげられている。従来型機能の提供に甘んじるIT 部門は、今後急速に活躍の場を失うことが懸念される。



出典：ITR「IT投資動向調査2015」

図 5　新分野の IT 動向に関する実施状況の経年変化（2012 ～ 2014 年度）



出典：ITR「IT投資動向調査2015」

図 6　IT 部門の役割（現在／今後）

IT 部門の「現在の役割」と「3～5 年後に担うべき役割」をそれぞれ質問したところ、システム運用やコスト管理といった「従来型機能」は、今後に向けて役割が大きく縮小するとの見方が示された。拡大する役割としては「ビジネスモデルの開発・改良」「ビジネス・イノベーションの促進」といった、ビジネス戦略と深く関わるテーマがあげられている。従来型機能の提供に甘んじるIT 部門は、今後急速に活躍の場を失うことが懸念される。

攻めの投資戦略を描けていない IT 部門。自らの立ち位置も含めた大胆な改革を

今回の調査結果を受けて、ITR のシニア・アナリスト舘野真人氏は、「2014 年度の IT 予算の増減はプラス水準となったものの、久々に大幅な回復となった前年度から成長率が鈍化し、再び低成長に向かう兆しが見えています。また、情報セキュリティ対策などのリスク対策費用が増加するなど、守りを重視した支出の増加が目立ちました。また、今回の調査からは、将来のビジネスの足がかりとなるような攻めの投資戦略を描けない IT 部門の悩みの深さも見てとれました。技術が変革期を迎えているなかで、IT 部門には自らの役割や立ち位置も含めた大胆な変革が求められています」と分析している。

＜調査の概要＞

本調査は、ITR が 2014 年 10 月 15 日から 10 月 31 日にかけて実施したもので、ITR の顧客企業や主催セミナーへの出席者、並びに Web 調査の独自パネルメンバーのうち、国内企業の IT 戦略・IT 投資の意思決定に関与する役職者 3,500 人に対して、アンケート用紙による記入もしくは Web 経由で回答を受け付けた。その結果、1,095 人から有効な回答を得た。

●お問い合せ先●
株式会社アイ・ティ・アール
E-mail：i.report@itr.co.jp
TEL 03-5304-1301（代）